

## ◎景気ウォッチャー調査[2024年5月]

### 2024年5月の中国地域調査結果の概況

#### ■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を2.7ポイント下回る46.2となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「電気料金の値上げや物価の高騰により、生活必需品以外の販売量が減少している。日々の生活に必要な物のみ購入されることが多く、買上点数の減少が顕著となっている。」(コンビニ)、「新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、当初は人出が増えた感じだったが、しばらくすると、よほどのことがなければ外出しないようになっている。」(一般レストラン)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.8ポイント下回る44.4となった。

企業動向関連は、「良くなっている」の回答の割合が減少し、「原料価格、運賃、経費が上昇し、全体的に売上も低迷しているため、利益が出ない状況にある。秋口に向けて値上げを検討しているが、客離れが心配であるため、判断が厳しくなっている。」(食品製造業)、「パソコンやスマートフォンなどの民生機器需要の減少や、中国経済の減速による半導体向けパッケージ基板需要の減少のため、プリント基板製造装置の受注が減少している。また、液晶パネル製造装置も生産調整が続いており、受注量が減少している。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を1.5ポイント下回る47.0となった。

雇用関連は、「派遣料金の値上げ交渉の効果が4月の売上から出現し、売上、利益共に上昇している。一方で、求職者確保のための競争が激化しており、いかに求職者を確保できるかが売上を左右する状況が続いている。」(人材派遣会社)、「定年退職等による将来的な退職を見越し、ミドル層の後任人材を発掘する動きが活発化している。」

(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.5ポイント上回る58.9となった。

	5月	4月	前月差
合計	46.2	48.9	-2.7
家計動向関連	44.4	48.2	-3.8
企業動向関連	47.0	48.5	-1.5
雇用関連(参考値)	58.9	55.4	3.5

#### ■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.2ポイント下回る47.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「物価や生活費が上がる一方なので、客の節約志向が高まっている。」(百貨店)、「今までは来客数の減少を商品の値上げでカバーしていたが、値上げが一段落し、来客数の減少が売上の減少につながるようになっている。」(スーパー)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.8ポイント下回る45.8となった。

企業動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「パリオリンピック・パラリンピックが実施されるため、その経済効果がある。」(繊維工業)、「直近の値上げ浸透により企業収益は拡大方向にある。」(輸送業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.2ポイント上回る50.0となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの58.9となった。

	5月	4月	前月差
合計	47.8	48.0	-0.2
家計動向関連	45.8	46.6	-0.8
企業動向関連	50.0	47.8	2.2
雇用関連(参考値)	58.9	58.9	0.0